2024_1004「江の島の虹（写真）」日々の理科 3711 号

お茶の水女子大学　サイエンス＆エデュケーション研究所　田中　千尋

・

「朝の虹は雨」という天気俚諺（てんきりげん／天気に関することわざ）があります。このことわざは、ある程度正しいです。80％とは言えませんが、60％ぐらいは当たるように思います。ただしこの俚諺は、主に日本列島付近でした通用しません。その仕組みはこんな感じです。

（１）虹は太陽を背に、観測者の向いている方向に雨雲（降雨帯）がある時に見える。

（２）日本の天気はおよそ西から東に向かって変わる。従って雨雲（降雨帯）も西から東に動くことが多い。

（３）朝に虹が見えるということは、太陽のある東側は晴れていて、西側に雨雲（降雨帯）があることが多い。

（４）虹が見えたあと、西側にあった雨雲（降雨帯）が観測者の場所に移動してきて、雨になることが多い。

先日、藤沢市の小学校で出張授業をした時に、朝の江の島に立ち寄りました。雨が降ったり止んだりしていたのですが、太陽と反対側の西側に、江の島にアーチが架かったような、見事な虹が出ました。しかし虹は短時間で消え、あっという間に虹を創った降雨帯が通過して、もう一度激しい雨になりました。

（2024 年 10 月上旬／神奈川県藤沢市江の島）